

平成29年度 伊深小学校研究構想図

【研究主題】

どの子ども楽しく「わかる」・「できる」授業づくり

～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた国語科・算数科指導の工夫～

【目指す児童の姿】

- ・学習に楽しく意欲的に取り組む児童
- ・授業で「わかった」、「できた」と実感できる児童
- ・互いに関わり合う中で、自分の考えを深める児童

【研究仮説】

児童のつまづきを予想し、焦点化・視覚化・共有化などの指導の工夫や個別の配慮を取り入れることで、どの子ども「わかった」、「できた」と実感でき、互いに関わり合う中で、自分の考えを深める児童を育成することができるであろう。

【研究内容1】

「授業を焦点化する」「授業を視覚化する」「授業で共有化する」

【焦点化】

- ① ねらいの焦点化
- ② 本時のねらいを達成するための 焦点化の場の設定とその手法
- ③ 児童の実態に合わせた手立ての工夫
 - ・6年間の指導内容のスマールステップ化

【視覚化】

- ① 挿絵・写真・動作の効果的な活用と思考につながる工夫
- ② センテンスカード・図・色短冊などを使用した構造的な板書の工夫
- ③ 焦点化したい内容を視覚化する工夫

【共有化】

- ① 共有化する場の設定と指導の工夫
- ② 表現力を高める指導の充実
 - ・はかせインタビュー
 - ・ペア交流
 - ・グループトークによる思考の深まり

【研究内容2】

基礎・基本の定着と習熟

【定着を図る】

- ① 一人一人に対応した効果的な言葉かけ・指導の工夫 (赤ペン○つけ法)
- ② 思考の流れが分かるノート指導の工夫
- ③ 授業の流れが分かる板書の工夫
- ④ 終末の確認問題の工夫

研究を支える日常的な活動

- ① 朝読書
- ② 音読・群読・朗読劇
- ③ 朝の会スピーチ
- ④ 全校的な場での感想交流
- ⑤ すいすいタイム

面による指導をふまえた授業改善

共生・人間関係能力